

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

◆◆◆ No.0646 ◆◆◆

21/07/28

## 【ドル/円の上昇は果たして今後も続くのか!?】

ここ 2 週間ほどドルはやや冴えないものの、ドルは今月はじめに年初来高値を更新するなど、なかなかしつかりした値動きだ。筆者は今年 3 月 24 日付のレポートで、今年 1 月に記録したドル安値 102.60 円について、「年初来安値示現疑念」説を指摘していたが、ハッキリ言ってその際の筆者の考えは間違っていた公算が極めて高い。つまり、1 月安値が今年の年初来安値となるだけでなく、若干のもたつき感は気になるがヒョッとすると「年初安の年末高」、一年を通してドルが緩やかな右肩上がりをした 2013 年や 2014 年のような展開をたどる可能性も否定出来なくなってきた。

### ◎ドルの「年初安・年末高」を予想する声もあるが、個人的には懐疑的

前述した 3 月 24 日付のレポートとは、ドル/円における「ドル安サイクル」について報じたもの。詳細は是非ともバックナンバーを当たってほしいが、筆者は 1 月に記録した年初来安値の 102.60 円が前回安値からちょうど 10 ヶ月目にあたることなど、10-15 ヶ月周期という「短期波動ボトム」の条件にギリギリ当てはまる」としつつも、結論としては短期サイクルボトムとの考えを否定していた。つまり、近い将来の 2 番底形成を予想していたわけだ。

しかし、そこから数ヶ月が経過。のちの一連の動きをみると、動静を読み間違ったと言わざるを得ない。後述するが、1 月安値 102.60 円が「年初来安値」だったか否かはわからないものの、レポートで指摘した短期サイクルのボトムだったことはほぼ間違いなく、現在はその後のドル戻り歩調にあると言えよう。なお、筆者の知人である「実力派」の某チャーティストは、1 月安値が今年の年初来安値となるだけでなく、ドルはこのあと年末にかけて、さらなる上昇をたどる展開を見込んでいる。もちろん、細かな上下動はあるにせよ、流れとしては 2013 年や 2014 年のような「年初安の年末高」の可能性を指摘していた。

もちろん、その可能性を否定することは出来ないのだが、実をいうと筆者は知人と少し異なる意見だ。前回予想を外している筆者なので、話半分程度と割り引いてもらいたいが、理由は 2 つあり具体的には以下のようになる。

何度も指摘しているように、年明け 102.60 円がドルのボトムとした場合、これまで取り上げてきた「ドル安サイクル」、その短期波動を参考にすると、次のドルの大きなボトムは「今年の年末から来年春ごろ」になる(下表参照)。そう、つまり、短期波動のサイクルが仮にもっとも短い期間の 10 ヶ月程度だった場合、前回安値(1 月 102.60 円)から数え今年の 11-12 月にも次のサイクルボトムが到来する公算が大きい。これが理由のひとつだ。

そしてもうひとつの理由は、同じく短期サイクルでドルがボトムをつけたあと、次のトップをつけるまでの期間を調べてみたところ短い場合で 2-3 ヶ月。長い場合でも半年程度が精々となっていることによる。翻ってみると、ドル/円は 1 月安値を付けたのちすでに 7 ヶ月近い上昇をたどっており、これは近年で過去最長期間だ。もちろん、だからといってすぐにドル安・円高に転じるということではないにせよ、時間的にも価格的にも、ここからのドル上値余地はさほど大きくないイメージも抱いている。むしろ、少しずつドルの下値リスクに警戒すべきではないかと思わなくもない。(了)

### ◎参考;2015 年以降のドル「底値⇒底値」の短期波動(10-15 ヶ月)

	⇒	15/06/05	125.86
・15/08/24 116.15(10 ヶ月)	⇒	15/11/18	123.77
・16/06/24 98.65(10 ヶ月)	⇒	16/12/15	118.66
・17/09/08 107.33(13 ヶ月)	⇒	17/11/06	114.73
・18/03/26 104.57( 7 ヶ月)	⇒	18/10/03	114.54
・19/01/03 104.10(10 ヶ月)	⇒	19/04/20	112.40
・20/03/09 101.19(14 ヶ月)	⇒	20/06/05	109.85
・21/01/06 102.60(10 ヶ月)	⇒		

\* 今年の年末から来年春ごろ



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。  
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter